

運用管理装置 PMANモデル50/100

コマンドリファレンス

富士通株式会社

改版履歴

No.	文書番号	日付	変更項目	変更箇所
1	POW-FFC-E-0032-R00	2002. 09. 29	初版	全頁
2	POW-FFC-E-0032-R01	2003. 04. 15	スケジュール機能、Windows サーバサポート機能の項目追加	全頁
			誤記修正	全頁
3	POW-FFC-E-0032-R02	2003. 10. 14	UPS 装置インタフェース機能、TELNET 透過通信接続許可/禁止機能の項目追加	—
		2003. 11. 12	POWER コマンドに全コンセント一括投入用の"ALL"パラメータを追加	P37
4	POW-FFC-E-0032-R03	2004. 02. 09	PMAN モデル50 対応	全頁
			SETFRONTSW コマンド追加	P9, P16
5	POW-FFC-E-0032-R04	2005. 02. 10	UPS 復電処理モード設定コマンド追加 SETUPSRESTORE	P10, P42
			サーバ監視開始待ち時間設定用 コマンド追加 SETWATCHSTART	P10, P43
			コンセントボックススイッチOFF 検出 時処理モード設定 SETNFB	P10, P44
			留意事項追加	P45
6	POW-FFC-E-0032-R05	2014. 8. 28	SETSDDAY コマンドコメント追記	P33
			SAVE コマンドコメント追記	P39
			※使用上の注意としてコメント追記	
7	POW-FFC-E-0032-R06	2016. 03. 02	WSCONNECT コマンドのコメント追記	P39

はじめに

本書は運用管理装置PMANモデル50/100のマニュアルです。

■ 本書の目的

本書では、COM管理コンソール/TELNET管理コンソールより、運用管理装置PMANモデル50/100に対して設定、情報の表示、装置のリセット等を行うためのコンソールコマンドについて記述しています。

■ 本書の対象者

- ・ 本装置を使用して運用管理を行う管理者の方
- ・ 本装置を使用したシステムの構築を行う方

■ 本書の構成

1. 概要

コンソールコマンドの概要について説明します。

2. コマンド一覧

コンソールコマンドの一覧を示します。

3. コマンド詳細

各コンソールコマンドの詳細について説明します。

■ 関連マニュアル

以下の資料を参照する事により、本書をより深く理解する事が出来ます。

- 「POW-FFC-E-0030 運用管理装置 PMANモデル 50 / 100 スタートアップガイド」
- 「POW-FFC-E-0031 運用管理装置 PMANモデル 50 / 100 ユーザーズガイド」
- 「LA91001-0184 運用管理装置 PMANモデル 100 取扱説明書」
- 「LA91001-0202 運用管理装置 PMANモデル 50 取扱説明書」
- 「LA91001-0185 コンセントボックス 1 取扱説明書」

お願い

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 本書を無断で複写または他に転写しないでください。・ 本書は予告なく変更することがあります。 |
|--|

UNIX は、X/Open カンパニーリミテッドが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
Microsoft、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

All Rights Reserved, Copyright © FUJITSU LIMITED 2008
Copyright 2008 FUJITSU ADVANCED ENGINEERING LIMITED

目次

第1章	概要	7
1.1	COM管理コンソール.....	7
1.2	TELNET管理コンソール.....	7
1.3	COM管理コンソールとTELNET管理コンソールの共通点.....	7
1.3.1	PMAN装置へのログイン.....	7
1.3.2	コマンドの書式.....	7
1.3.3	多重ログイン制限.....	8
1.3.4	タイムアウトによる自動ログオフ.....	8
1.4	COM管理コンソールとTELNET管理コンソールの相違点.....	8
第2章	コマンド一覧	9
2.1	設定系コマンド.....	9
2.2	実行系コマンド.....	11
第3章	コマンド詳細	12
3.1	SETAPON [アプリケーション電源投入設定].....	13
3.2	SETAPOFF [アプリケーション電源切断設定].....	14
3.3	SETCOM [サーバ通信用シリアルポート設定].....	15
3.4	SETFRONTSW [前面 SW 設定].....	16
3.5	SETHARD [ハードウェア設定].....	16
3.6	SETLAN [装置ネットワーク設定].....	17
3.7	SETNTP [時刻同期機能設定].....	18
3.8	SETOUTLET [コンセント設定].....	19
3.9	SETSCRIPT [スクリプト設定].....	21
3.10	SETSNMPTRAP [SNMPトラップ設定].....	22
3.11	SETSNMPCOMMUNITY [SNMPコミュニティ設定].....	23
3.12	SETSNMPNAME [SNMP名称設定].....	23
3.13	SETSNMPACCESS [SNMPアクセス許可アドレス設定].....	24
3.14	SETUSER [ユーザ情報設定].....	25
3.15	SETUPS [UPS設定].....	27
3.16	SETUPSIF [UPS装置 I/F 設定].....	28
3.17	SETTIME [時刻設定].....	29
3.18	SETTELVALID [TELNET透過通信接続許可/禁止設定].....	30
3.19	SETWATCH [監視設定].....	31
3.20	SETSDLPATTERN [スケジュール運用パターン設定].....	32
3.21	SETSDLDAY [特定日スケジュール設定].....	33
3.22	SETSDLWEEKLY [週間スケジュール設定].....	34
3.23	SETSDLHOLIDAY [平日/休日スケジュール設定].....	34

3.24	SETSDLFOLLOW [スケジュール追従設定]	35
3.25	SETSDLVALID [スケジュール有効/無効設定]	35
3.26	ALLGET [装置設定取得]	36
3.27	ALLSET [装置設定]	36
3.28	DEFAULT [設定初期化]	36
3.29	DUMP [メモリダンプ]	37
3.30	HELP [ヘルプ]	37
3.31	LOGCLR [運用ログクリア]	37
3.32	LOGOFF [設定モードログオフ]	38
3.33	LOGVIEW [ログ表示]	38
3.34	POWER [電源投入/切断]	38
3.35	RESET [運用管理装置再起動]	39
3.36	SAVE [装置設定の不揮発メモリへの格納]	39
3.37	WSCONNECT [サーバ透過通信開始]	39
3.38	TELNETCUT [TELNET 透過通信切断]	40
3.39	TRACE [ユーザトレース有効/無効]	40
3.40	VIEW [設定情報表示]	40
3.41	SDLCLEAR [スケジュール設定初期化]	41
3.42	SETUPSRESTORE [UPS 復電処理モード設定]	42
3.43	SETWATCHSTART [サーバ監視開始待ち時間設定]	43
3.44	SETNFB [コンセントボックススイッチ OFF 検出時処理モード設定]	44
第4章 留意事項		45
4.1	ALLGET, ALLSET	45

第1章 概要

運用管理装置PMANモデル50/100（以降、「PMAN装置」と呼びます）は、COM管理コンソール、TELNET管理コンソール、およびWebブラウザより設定、情報の表示、装置のリセット等を行う事ができます。

このうち、COM管理コンソール、およびTELNET管理コンソールは、共通のコマンドラインインタフェース（以降、「コンソールコマンド」と呼びます）を持っています。

1.1 COM管理コンソール

PMAN装置前面のCONSOLEポートと接続して、ターミナルソフトウェアを介して設定します。コンソール端末、RS-232C（9ピン）クロスケーブルが必要です。

1.2 TELNET管理コンソール

PMAN装置にTELNETクライアントから接続して設定します。TELNET端末が必要です。

1.3 COM管理コンソールとTELNET管理コンソールの共通点

1.3.1 PMAN装置へのログイン

コンソールコマンドを使用するには、各管理コンソールからPMAN装置にログインする必要があります。ログイン方法を以下に示します。

- ① COM管理コンソール、またはTELNET管理コンソールをPMAN装置に接続すると、コンソール画面に”UserName:”と表示されます。PMAN装置に登録してあるユーザIDを入力し、リターンキーを押下してください。
- ② 次にコンソール画面に”Password:”と表示されます。ユーザIDに対応するパスワードを入力し、リターンキーを押下してください。
※パスワード入力時には、画面にエコーバックがありませんので、注意してください。
- ③ 正しいユーザIDとパスワードを入力したのならば、コンソール画面に”コマンドプロンプト”>”が表示されます。

1.3.2 コマンドの書式

コンソール画面に”コマンドプロンプト”>”が表示されていれば、コンソールコマンドを実行することができます。コンソールコマンドの一般的な書式を以下に示します。

- [コマンド名]（ [引数]（ [引数2]（ [引数3]…） ） ）
- 引数が必要なコマンドでは、コマンドと引数の間を’ ’（スペース）1個で区切ります。
- 引数が複数あるコマンドでは、各引数の間を’,’（カンマ）で区切ります。引数と’,’の間は必ず詰めて指定します。

個々のコマンドとその書式については、2章以降に記述します。

1.3.3 多重ログイン制限

既に誰かCOM管理コンソール、またはTELNET管理コンソールからPMAN装置へログインしている間は、他のCOM管理コンソール、またはTELNET管理コンソールからPMAN装置へログインすることはできません。

また、CONSOLEポートにRS-232Cケーブルを物理的に再接続した場合は、接続中のTELNET管理コンソールは切断されCOM管理コンソール接続を優先します。

1.3.4 タイムアウトによる自動ログオフ

各管理コンソールへの入出力が途絶えて10分以上経過するとコンソール画面に”Log off”と表示され、PMAN装置から自動的にログオフします。

1.4 COM管理コンソールとTELNET管理コンソールの相違点

TELNET管理コンソールからは、下記のコンソールコマンドは使用できません。

TELNET管理コンソールから使用不能なコマンド…WSCONNECT, TELNETCUT

第2章 コマンド一覧

以下にコンソールコマンドの一覧を示します。

2.1 設定系コマンド

表1. 1 設定系コマンド一覧 (1/2)

コマンド名	内容	実行可能 ユーザ権限
SETAPON	アプリケーション電源投入に関する設定を行う	ROOT ADMIN
SETAPOFF	アプリケーション電源切断に関する設定を行う	ROOT ADMIN
SETCOM	サーバ通信用シリアルポートの設定を行う	ROOT ADMIN
SETFRONTSW (PMANモデル50のみ)	電源ON/OFFスイッチに関する設定を行う	ROOT ADMIN
SETHARD	ハードウェアに関する設定を行う	ROOT ADMIN
SETLAN	装置ネットワークの設定を行う	ROOT ADMIN
SETNTP	時刻同期機能に関する設定を行う	ROOT ADMIN
SETOUTLET	各コンセントに対する設定を行う	ROOT ADMIN
SETSCRIPT	WS サーバに対して行われるシャットダウン動作 に対して使用されるスクリプトの設定を行う	ROOT ADMIN
SETSNMPTRAP	SNMP トラップの設定を行う	ROOT ADMIN
SETSNMPCOMMUNITY	SNMP コミュニティの設定を行う	ROOT ADMIN
SETSNMPNAME	SNMP にて使用する、装置設置場所および、連絡 先の設定を行う	ROOT ADMIN
SETSNMPACCESS	SNMP アクセス許可アドレスの設定を行う	ROOT ADMIN
SETUSER	ユーザの登録、変更、削除を行う	ROOT ADMIN
SETUPS	UPS に関連する設定を行う	ROOT ADMIN
SETUPSIF	UPS 装置インタフェース接続に関する設定を行 う	ROOT ADMIN
SETTIME	時刻の設定を行う	ROOT ADMIN

ROOT =ルートユーザ

ADMIN=管理ユーザ

表1. 2 設定系コマンド一覧 (2/2)

コマンド名	内容	実行可能 ユーザ権限
SETTELVALID	TELNET 透過通信接続に関する設定を行う	ROOT ADMIN
SETWATCH	サーバに対して行われる監視設定を行う	ROOT ADMIN
SETSDLPATTERN	スケジュール運用パターンを設定を行う	ROOT ADMIN
SETSDLDAY	特定日スケジュールの設定を行う	ROOT ADMIN
SETSDLWEEKLY	週間スケジュールの設定を行う	ROOT ADMIN
SETSDLHOLIDAY	平日/休日スケジュールの設定を行う	ROOT ADMIN
SETSDLFOLLOW	スケジュール追従有無の設定を行う	ROOT ADMIN
SETSDLVALID	スケジュール有効/無効の設定を行う	ROOT ADMIN
SETUPSRESTORE	UPS 復電処理モードの設定を行う	ROOT ADMIN
SETWATCHSTART	サーバ監視処理の開始条件設定を行う	ROOT ADMIN
SETNFB (PMANモデル100のみ)	コンセントボックススイッチ OFF 検出時の処理 モードの設定を行う	ROOT ADMIN

ROOT = ルートユーザ

ADMIN = 管理ユーザ

2.2 実行系コマンド

表1.1 実行系コマンド一覧

コマンド名	内容	実行可能 ユーザ権限
ALLGET	運用管理装置内に設定されている情報を取得する	ROOT ADMIN
ALLSET	ALLGET コマンドにて取得された設定情報を運用装置に反映させる	ROOT ADMIN
DEFAULT	設定を工場出荷時の状態に戻す	ROOT ADMIN
DUMP	運用管理装置内のダンプ表示を行う	ROOT
HELP	コマンドの一覧を表示する	ROOT ADMIN USER
LOGCLR	運用ログのクリアを行う	ROOT ADMIN
LOGOFF	管理コンソールのログオフを行う	ROOT ADMIN USER
LOGVIEW	運用ログの表示を行う	ROOT ADMIN USER
POWER	各コンセントの電源投入/切断を行う	ROOT ADMIN
RESET	運用管理装置を再起動する	ROOT ADMIN
SAVE	設定系コマンドにて設定された項目を運用管理装置内の不揮発メモリに記録する	ROOT ADMIN
WSCONNECT (COM管理コンソール専用コマンド)	各コンセントに接続されているサーバ (WS、周辺機器) に対して透過通信を開始する	ROOT ADMIN
TELNETCUT (COM管理コンソール専用コマンド)	実行されている透過通信の切断を行う	ROOT ADMIN
TRACE	ユーザトレース機能のON/OFFを行う	ROOT ADMIN
VIEW	設定情報の表示を行う	ROOT ADMIN USER
SDLCLEAR	スケジュール設定のクリアを行う	ROOT ADMIN

ROOT = ルートユーザ

ADMIN = 管理ユーザ

USER = 一般ユーザ

第3章 コマンド詳細

以下に各コンソールコマンドの詳細を説明します。

3.1 SETAPON [アプリケーション電源投入設定]

SETAPON コマンドは、アプリケーション電源投入に関する設定を行います。

8つのコンセント各々に対して3通りの設定が可能になっています。

※同一のコンセントに対して、アプリケーション電源切断設定と重複する設定にすることはできません。

コマンド形式

SETAPON [引数1], [引数2], [引数3], [引数4], [引数5], [引数6], [引数7], [引数8], [引数9], [引数10]

コマンド引数

引数番号	内容		設定値	初期値
1	コンセント番号		1~8 (PMAN モデル 100) 1~2 (PMAN モデル 50)	—
2	設定 1	プロトコル 1 電源投入を許可する相手の通信プロトコル	NON = 設定無し TCP = TCP/IP UDP = UDP/IP	NON
3		IP アドレス 1 電源投入を許可する相手の IP アドレス	IP アドレス 127. 0. 0. 1 0. XXX. XXX. XXX 224. XXX. XXX. XXX XXX. XXX. XXX. 0 XXX. XXX. XXX. 255 以外の値)	0. 0. 0. 0
4		ポート番号 1 電源投入を許可する相手からの電文受信用ポート番号	1024~65535	0
5	設定 2	プロトコル 2 電源投入を許可する相手の通信プロトコル	引数 2 と同じ	NON
6		IP アドレス 2 電源投入を許可する相手の IP アドレス	引数 3 と同じ	0. 0. 0. 0
7		ポート番号 2 電源投入を許可する相手からの電文受信用ポート番号	引数 4 と同じ	0
8	設定 3	プロトコル 3 電源投入を許可する相手の通信プロトコル	引数 2 と同じ	NON
9		IP アドレス 3 電源投入を許可する相手の IP アドレス	引数 3 と同じ	0. 0. 0. 0
10		ポート番号 3 電源投入を許可する相手からの電文受信用ポート番号	引数 4 と同じ	0

コマンド使用例

SETAPON 1, TCP, 192. 168. 1. 11, 2001, UDP, 192. 168. 1. 101, 2002, NON, 0. 0. 0. 0, 0

3.2 SETAPOFF [アプリケーション電源切断設定]

SETAPOFF コマンドは、アプリケーション電源切断に関する設定を行います。

8つのコンセント各々に対して3通りの設定が可能になっています。

※同一のコンセントに対して、アプリケーション電源投入設定と重複する設定にすることはできません。

コマンド形式

SETAPOFF [引数 1], [引数 2], [引数 3], [引数 4], [引数 5], [引数 6], [引数 7], [引数 8], [引数 9], [引数 10]

コマンド引数

引数番号	内容		設定値	初期値
1	コンセント番号		1~8 (PMAN モデル 100) 1~2 (PMAN モデル 50)	—
2	設定 1	プロトコル 1 電源切断を許可する相手の通信プロトコル	NON = 設定無し TCP = TCP/IP UDP = UDP/IP	NON
3		IP アドレス 1 電源切断を許可する相手の IP アドレス	IP アドレス (127.0.0.1 0.XXX.XXX.XXX 224.XXX.XXX.XXX XXX.XXX.XXX.0 XXX.XXX.XXX.255 以外の値)	0.0.0.0
4		ポート番号 1 電源切断を許可する相手からの電文受信用ポート番号	1024~65535	0
5	設定 2	プロトコル 2 電源切断を許可する相手の通信プロトコル	引数 2 と同じ	NON
6		IP アドレス 2 電源切断を許可する相手の IP アドレス	引数 3 と同じ	0.0.0.0
7		ポート番号 2 電源切断を許可する相手からの電文受信用ポート番号	引数 4 と同じ	0
8	設定 3	プロトコル 3 電源切断を許可する相手の通信プロトコル	引数 2 と同じ	NON
9		IP アドレス 3 電源切断を許可する相手の IP アドレス	引数 3 と同じ	0.0.0.0
10		ポート番号 3 電源切断を許可する相手からの電文受信用ポート番号	引数 4 と同じ	0

コマンド使用例

SETAPOFF 1, TCP, 192.168.1.11, 2011, UDP, 192.168.1.101, 2012, NON, 0.0.0.0, 0

3.3 SETCOM [サーバ通信シリアルポート設定]

SETCOM コマンドは、サーバ側のシリアルポートに対する設定を行います。

コマンド形式

SETCOM [引数 1], [引数 2], [引数 3], [引数 4], [引数 5], [引数 6]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	コンセント番号	1~8 (PMAN 仕様 100) 1~2 (PMAN 仕様 50)	—
2	ボーレート エージェントとのシリアル通信条件(ボーレート)	1200 = 1200bps 2400 = 2400bps 4800 = 4800bps 9600 = 9600bps 19200=19200bps	9600
3	パリティ エージェントとのシリアル通信条件(パリティ)	NON = パリティなし ODD = 奇数パリティ EVEN= 偶数パリティ	NON
4	データ長 エージェントとのシリアル通信条件(データ長)	5 =5ビット 6 =6ビット 7 =7ビット 8 =8ビット	8
5	ストップビット長 エージェントとのシリアル通信条件(ストップビット)	1 =1ビット 1.5=1.5ビット(データ長 5bit 時のみ) 2 =2ビット(データ長 6-8bit 時のみ)	1
6	フロー制御 エージェントとのシリアル通信条件(フロー制御)	NON = フロー制御なし HARD=ハード制御 SOFT=ソフト制御	SOFT

コマンド使用例

SETCOM 2, 9600, NON, 8, 1, NON

3.4 SETFRONTSW [前面 SW 設定]

- ・電源ON/OFFスイッチに関する設定を行う。(PMANモデル50のみ)

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	ブザー鳴動有効/無効 異常発生時等のブザー鳴動の有効/無効	ON =有効 OFF=無効	ON

コマンド使用例

SETFRONTSW ON

3.5 SETHARD [ハードウェア設定]

SETHARD コマンドは、ハードウェアに関する設定を行います。

コマンド形式

SETHARD [引数 1]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	ブザー鳴動有効/無効 異常発生時等のブザー鳴動の有効/無効	ON =有効 OFF=無効	ON

コマンド使用例

SETHARD OFF

3.6 SETLAN [装置ネットワーク設定]

SETLAN コマンドは、装置ネットワークに関する設定を行います。

コマンド形式

SETLAN [引数1], [引数2], [引数3], [引数4], [引数5], [引数6], [引数7], [引数8]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	ホスト名 本装置をネットワークに接続する際に使用するホスト名	半角230文字までの英数字	空文字
2	IPアドレス 本装置をネットワークに接続する際に使用するIPアドレス	IPアドレス (127.0.0.1 0.XXX.XXX.XXX 224.XXX.XXX.XXX XXX.XXX.XXX.0 XXX.XXX.XXX.255 以外の値)	192.168.1.1
3	サブネットマスク 本装置をネットワークに接続する際に使用するサブネットマスク	マスク値 先頭ビットから1が連続していること 1の間に0が含まれないこと	0.0.0.0
4	ゲートウェイアドレス1 本装置をネットワークに接続する際に使用するデフォルトゲートウェイアドレス	IPアドレス (127.0.0.1 0.XXX.XXX.XXX 224.XXX.XXX.XXX XXX.XXX.XXX.0 XXX.XXX.XXX.255 以外の値)	0.0.0.0
5	ゲートウェイアドレス2	上記と同じ	0.0.0.0
6	ゲートウェイアドレス3	上記と同じ	0.0.0.0
7	ゲートウェイアドレス4	上記と同じ	0.0.0.0
8	ゲートウェイアドレス5	上記と同じ	0.0.0.0

※ゲートウェイアドレスには、デフォルトゲートウェイアドレスを設定してください。
優先順位は、最後に設定したゲートウェイアドレス番号のアドレスが有効となります。

コマンド使用例

SETLAN PMAN#01, 192.168.100.11, 255.255.255.0, 192.168.100.21, 0.0.0.0, 0.0.0.0, 0.0.0.0, 0.0.0.0

3.7 SETNTP [時刻同期機能設定]

SETNTP コマンドは、時刻同期機能(NTP 通信)に関する設定を行います。

コマンド形式

SETNTP [引数1], [引数2], [引数3]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	時刻同期有効/無効 NTP を使用しての時刻同期の有効/無効	ON =有効 OFF=無効	OFF
2	NTP サーバ IP アドレス 時刻同期に用いるサーバの IP アドレス	IP アドレス (127.0.0.1 0.XXX.XXX.XXX 224.XXX.XXX.XXX XXX.XXX.XXX.0 XXX.XXX.XXX.255 以外の値)	0.0.0.0
3	時刻同期間隔 時刻同期の間隔。0 指定は、起動時に1 度だけ時刻同期を行います。	0~1440(分)	1440

コマンド使用例

SETNTP ON, 192.168.10.241, 60

3.8 SETOUTLET [コンセント設定]

SETOUTLET コマンドは、コンセントの接続機器、電源投入/切断タイミング等の設定を行います。

コマンド形式

SETOUTLET [引数 1], [引数 2], [引数 3], [引数 4], [引数 5], [引数 6], [引数 7], [引数 8]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値																
1	コンセント番号	1~8 (PMAN モデル 100) 1~2 (PMAN モデル 50)	—																
2	コンセント名称 コンセントの名称	半角 31 文字までの英数字	空文字																
3	接続機器 接続されているエージェントの装置タイプ ※注意事項 接続機器を Windows 系サーバから他の機器に変更する場合のみ以下の設定も自動的に変更されます。(Windows 系サーバでのみ使用可能な機能が存在するため)このような操作を実行される場合には、それらの設定項目もあわせて見直しをする必要があります。	NON=未接続 WS=ワークステーション (UNIX) PC=Windows PERI=周辺機器 UPSIF=UPS 装置 I/F	PERI																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>設定項目</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>サーバ起動 完了監視</td> <td>ON</td> <td>OFF</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>ウォッチドッグ タイマ監視</td> <td>ON</td> <td>OFF</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>シリアルポート信号 監視動作</td> <td>DR</td> <td>WT</td> </tr> </tbody> </table> ON = 有効 OFF= 無効 DR = サーバの DSR 信号の ON を 検出後監視開始 WT = サーバ監視開始待ち時間経過後 監視開始 ③については既に設定されている時間 値にて動作します。(デフォルト値:0) この値は接続する機器に合わせて設定 しておしてください。 (コマンド SETWATCHSTART 参照)		設定項目	変更前	変更後	①	サーバ起動 完了監視	ON	OFF	②	ウォッチドッグ タイマ監視	ON	OFF	③	シリアルポート信号 監視動作	DR	WT		
	設定項目	変更前	変更後																
①	サーバ起動 完了監視	ON	OFF																
②	ウォッチドッグ タイマ監視	ON	OFF																
③	シリアルポート信号 監視動作	DR	WT																
4	リモート電源投入有効/無効 リモートからの電源投入の許可/禁止	ON =有効 OFF=無効	ON																

引数番号	内容	設定値	初期値
5	リモート電源切断有効/無効 リモートからの電源切断の許可/禁止	ON =有効 OFF=無効	ON
6	電源投入待ち時間 電源投入イベント発生から AC 出力の開始 までの待ち時間	10~1800 (秒)	10~17(コンセント 毎に1秒ずつ長 くなっている)
7	シャットダウン通知待ち時間 電源切断イベントが発生してからエージェント に通知するまでの待ち時間	0~1800 (秒)	0
8	シャットダウン待ち時間 エージェントのシャットダウン処理開始から AC 出 力を停止するまでの待ち時間	0~120 (分)	3

コマンド使用例

SETOUTLET 3, MACHINE#03, WS, ON, ON, 13, 3, 5

3.9 SETSCRIPT [スクリプト設定]

SETSCRIPT コマンドは、ワークステーションおよび一部の周辺機器に対するシャットダウンのためのログイン、シャットダウンスクリプトの設定を行います。

※本コマンドは、コマンド実行後スクリプト入力モードになります。

『/EOT』をスクリプトの終端に入力し改行することにより、スクリプト入力モードは完了します。スクリプトは改行を含む511文字までの英数字が入力できます。

コマンド形式

SETSCRIPT [引数1], [引数2]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	コンセント番号	1~8 (PMAN 75ℓ100) 1~2 (PMAN 75ℓ50)	—
2	スクリプト種別	LOGON =ログオン SHUTDOWN=通常シャットダウン POWERFAIL=停電時シャットダウン	空文字

コマンド使用例

SETSCRIPT 4, LOGON

3.10 SETSNMPTRAP [SNMPトラップ設定]

SETSNMPTRAP コマンドは、SNMPトラップの通知先 IP アドレスおよびコミュニティ名を設定します。

コマンド形式

SETSNMPTRAP [引数1], [引数2], [引数3]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	データ番号	1~5	—
2	コミュニティ名 SNMPトラップ通知で使用するコミュニティ名	半角 200 文字までの英数字	—
3	通知先 IP アドレス SNMPトラップ通知で使用する通知先	IP アドレス (127.0.0.1 0.XXX.XXX.XXX 224.XXX.XXX.XXX XXX.XXX.XXX.0 XXX.XXX.XXX.255 以外の値)	—

コマンド使用例

SETSNMPTRAP 1, PMANNET, 192.168.1.11

3.1.1 SETSNMPCOMMUNITY [SNMPコミュニティ設定]

SETSNMPCOMMUNITY コマンドは、SNMPコミュニティ名を設定します。

コマンド形式

SETSNMPCOMMUNITY [引数1], [引数2]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	データ番号	1~5	—
2	コミュニティ名 SNMPアクセスで使用するコミュニティ名	半角 200 文字までの英数字	空文字

コマンド使用例

SETSNMPCOMMUNITY 1, PMANNET

3.1.2 SETSNMPNAME [SNMP名称設定]

SETSNMPNAME コマンドは、SNMPの連絡先および、装置設置場所を設定します。

コマンド形式

SETSNMPNAME [引数1], [引数2]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	装置設置場所 SNMPアクセスで使用する装置設置場所	半角 230 文字までの英数字	空文字
2	連絡先 SNMPアクセスで使用する連絡先	半角 230 文字までの英数字	空文字

コマンド使用例

SETSNMPNAME FACTORY01-E03-5F, 3897-6470

3.13 SETSNMPACCESS [SNMPアクセス許可アドレス設定]

SETSNMPACCESS コマンドは、SNMPアクセスを許可するアドレスを設定します。

コマンド形式

SETSNMPACCESS [引数1], [引数2], [引数3], [引数4], [引数5]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	アクセス許可 IP アドレス 1 SNMPアクセスを許可する IP アドレス	IP アドレス (127.0.0.1 0. XXX. XXX. XXX 224. XXX. XXX. XXX XXX. XXX. XXX. 0 XXX. XXX. XXX. 255 以外の値)	—
2	アクセス許可 IP アドレス 2	上記と同じ	—
3	アクセス許可 IP アドレス 3	上記と同じ	—
4	アクセス許可 IP アドレス 4	上記と同じ	—
5	アクセス許可 IP アドレス 5	上記と同じ	—

コマンド使用例

SETSNMPACCESS 192.168.1.11, 192.168.1.12, 192.168.1.101, 192.168.1.102, 0.0.0.0

3.14 SETUSER [ユーザ情報設定]

SETUSER コマンドは、ユーザの追加、変更、削除を行います。

コマンド形式

SETUSER [引数 1], [引数 2], [引数 3], [引数 4] (追加時、削除時)
 SETUSER [引数 1], [引数 2], [引数 3], [引数 4], [引数 5], [引数 6] (変更時)

コマンド引数 (追加時)

引数番号	内容	設定値	初期値
1	設定種別	ADD=追加	—
2	ユーザ種別 ユーザ ID に対応するユーザ権限	ROOT =ルートユーザ ADMIN=管理ユーザ USER =一般ユーザ	—
3	ユーザ ID 本装置のログイン名	半角 1～8 文字	—
4	パスワード ユーザ ID に対応するパスワード	半角 6～8 文字	—

コマンド引数 (削除時)

引数番号	内容	設定値	初期値
1	設定種別	DEL=削除	—
2	ユーザ種別 ユーザ ID に対応するユーザ権限	ROOT =ルートユーザ ADMIN=管理ユーザ USER =一般ユーザ	—
3	ユーザ ID 本装置のログイン名	半角 1～8 文字	—
4	パスワード ユーザ ID に対応するパスワード	半角 6～8 文字	—

コマンド引数 (変更時)

引数番号	内容	設定値	初期値
1	設定種別	CHG=変更	—
2	ユーザ種別 変更前のユーザ ID に対応するユーザ権限	ROOT = ルートユーザ ADMIN = 管理ユーザ USER = 一般ユーザ	—
3	現行ユーザ ID 本装置の変更前のログイン名	半角 1～8 文字	—
4	現行パスワード 変更前のユーザ ID に対応するパスワード	半角 6～8 文字	—
5	変更後ユーザ ID 本装置の変更後のログイン名	半角 1～8 文字	—
6	変更後パスワード 変更後のユーザ ID に対応するパスワード	半角 6～8 文字	—

コマンド使用例

```
SETUSER ADD, USER, USER01, XXXXXXXX
```

```
SETUSER DEL, ADMIN, ADMINIST, XXXXXXXX
```

```
SETUSER CHG, ADMIN, ADMINIST, XXXXXXXX, ADMSTRTR, XXXXXXXX
```

3.15 SETUPS [UPS設定]

SETUPS コマンドは、UPSの設定を行います。

コマンド形式

SETUPS [引数1], [引数2], [引数3], [引数4], [引数5]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	UPS 待ち時間 UPS から停電信号を受けてからエージェントのシャットダウンシーケンスを開始するまでの待ち時間	0~180 (分)	5
2	UPS 停止有効/無効 UPS 停電検出後、全 AC コンセントを出力停止した後の UPS 出力停止の有効/無効	ON =有効 OFF=無効	ON
3	UPS 停止待ち時間 (UPS 出力停止設定が有効な場合に) UPS 停電検出後、全 AC コンセントを出力停止した後の UPS 出力停止を実行するまでの待ち時間	0~1800 (秒)	10
4	復電有効/無効 停電によりエージェントへの AC 出力を停止した後に復電した場合の、AC 出力自動開始の有効/無効	ON =有効 OFF=無効	ON
5	バッテリー低下後復電有効/無効 UPS バッテリー低下によりエージェントへの AC 出力を停止した後に復電した場合の、AC 出力自動開始の有効/無効	ON =有効 OFF=無効	ON

コマンド使用例

SETUPS ON, 3, ON, ON

3.16 SETUPSIF [UPS装置I/F設定]

SETUPSIF コマンドは、サーバのUPS装置インタフェース接続に関する設定を行います。

※本コマンドで設定した値は、SETOUTLET コマンドの第3引数、接続機器がUPSIFの時のみ使用されます。

コマンド形式

SETUPSIF [引数1], [引数2] (SMART-UPS 時)

SETUPSIF [引数1], [引数2], [引数3], [引数4], [引数5], [引数6] (接点型UPS 時)

コマンド引数(SMART-UPS 時)

引数番号	内容	設定値	初期値
1	コンセント番号	1~8 (PMANモデル100) 1~2 (PMANモデル50)	—
2	接続UPS種別	SM= SMART-UPS	SM

コマンド引数(接点型UPS 時)

引数番号	内容	設定値	初期値
1	コンセント番号	1~8 (PMANモデル100) 1~2 (PMANモデル50)	—
2	接続UPS種別	SG=接点型UPS	SM
3	電源障害信号	HI=正論理 LO=負論理	HI
4	バッテリー低下信号	HI=正論理 LO=負論理	HI
5	UPS出力停止信号	HI=正論理 LO=負論理	HI
6	電源切断方法 (DTR(UPS出力停止)信号による電源切断の有効/無効)	ON=有効 OFF=無効	ON

コマンド使用例

SETUPSIF 3, SM

SETUPSIF 5, SG, HI, HI, HI, ON

3.17 SETTIME [時刻設定]

SETTIME コマンドは、時刻の設定を行います。

コマンド形式

SETTIME [引数 1], [引数 2], [引数 3], [引数 4], [引数 5], [引数 6]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	年	2000~2099	—
2	月	1~12	—
3	日	1~31 (最大値は月により変化)	—
4	時	0~23	—
5	分	0~59	—
6	秒	0~59	—

コマンド使用例

SETTIME 2002, 10, 26, 18, 49, 0

3.18 SETTELVALID [TELNET透過通信接続許可/禁止設定]

各コンセント毎にTELNET透過通信接続の許可、禁止設定を行います。
ここで禁止設定を行ったコンセントは、クライアントからのTELNET接続を無視します。

コマンド形式

SETTELVALID [引数1], [引数2]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	コンセント番号	1~8 (PMANモデル100) 1~2 (PMANモデル50)	—
2	TELNET 透過通信接続許可/禁止設定	ON =許可 OFF=禁止	ON

コマンド使用例

SETTELVALID 2, ON

3.19 SETWATCH [監視設定]

SETWATCH コマンドは、サーバ監視の設定を行います。

コマンド形式

SETWATCH [引数 1], [引数 2], [引数 3], [引数 4], [引数 5], [引数 6], [引数 7], [引数 8], [引数 9], [引数 10], [引数 11], [引数 12], [引数 13]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	コンセント番号	1~8 (PMAN モデル 100) 1~2 (PMAN モデル 50)	—
2	PING 監視有効/無効 サーバおよび周辺機器に対してのPING通信を使用する通信監視の有効/無効	ON =有効 OFF=無効	OFF
3	PING 監視対象 IP アドレス PING 監視を行うサーバおよび周辺機器の IP アドレス	IP アドレス (127. 0. 0. 1 0. XXX. XXX. XXX 224. XXX. XXX. XXX XXX. XXX. XXX. 0 XXX. XXX. XXX. 255 以外の値)	0. 0. 0. 0
4	PING 監視間隔 サーバおよび周辺機器に対してPING通信を行う間隔	1~1800 (秒)	60
5	PING 監視応答待ち時間 サーバおよび周辺機器に対してPING通信を行った後に、返信を待つ間隔	5~1800 (秒)	10
6	PING 監視リトライ回数 サーバおよび周辺機器に対してPING通信のレスポンス待ちタイムアウトを検出した際に、PING 通信を再実行する回数	0~10	5
7	ウォッチドッグ監視有効/無効	ON =有効 OFF=無効	OFF
8	ウォッチドッグ監視間隔	1~1800 (秒)	60
9	ウォッチドッグ監視応答待ち時間	10~1800 (秒)	10
10	ウォッチドッグ監視リトライ回数	0~10	5
11	IPL 監視有効/無効	ON =有効 OFF=無効	OFF
12	IPL 監視時間	0~120 (分)	10
13	DSR 監視有効/無効 シリアル通信の DSR 信号監視の有効/無効	ON =有効 OFF=無効	OFF

コマンド使用例

SETWATCH 2, ON, 192. 168. 1. 11, 300, 10, 3, ON, 30, 10, 5, ON, 5, ON

3.20 SETSDLPATTERN [スケジュール運用パターン設定]

SETSDLPATTERN コマンドは運用パターンの追加、削除を行います。

コマンド形式

SETSDLPATTERN [引数 1], [引数 2], [引数 3], [引数 4], [引数 5], [引数 6], [引数 7], [引数 8], [引数 9], [引数 10], [引数 11], [引数 12], [引数 13] (追加時)

SETSDLPATTERN [引数 1], [引数 2], [引数 3] (削除時)

コマンド引数 (追加時)

引数番号	内容	設定値	初期値
1	運用パターン番号	A~J	—
2	設定種別	ADD=追加	—
3	運用パターン名	0~32 文字	—
4	時	0~23	—
5	分	0~59	—
6	電源 ON/OFF 種別(コンセント 1)	ON=電源 ON OFF=電源 OFF	—
7	電源 ON/OFF 種別(コンセント 2)	上記と同じ	—
8	電源 ON/OFF 種別(コンセント 3)※1	上記と同じ	—
9	電源 ON/OFF 種別(コンセント 4)※1	上記と同じ	—
10	電源 ON/OFF 種別(コンセント 5)※1	上記と同じ	—
11	電源 ON/OFF 種別(コンセント 6)※1	上記と同じ	—
12	電源 ON/OFF 種別(コンセント 7)※1	上記と同じ	—
13	電源 ON/OFF 種別(コンセント 8)※1	上記と同じ	—

コマンド引数 (削除時)

引数番号	内容	設定値	初期値
1	運用パターン番号	A~J	—
2	設定種別	DEL=削除	—
3	情報番号	0=一括クリア 1~20=情報番号設定値クリア	—

※1 PMANモデル 100でのみ使用可能なパラメータ

コマンド使用例

- PMANモデル 50 の場合
SETSDLPATTERN A, ADD, PATTERN=A, 0, 1, ON, ON
SETSDLPATTERN A, DELL, 0
- PMANモデル 100 の場合
SETSDLPATTERN A, ADD, PATTERN=A, 0, 1, ON, ON, ON, ON, ON, ON, ON, ON, ON, ON
SETSDLPATTERN A, DELL, 0

3.21 SETSDLDAY [特定日スケジュール設定]

SETSDLDAY コマンドは特定日に実行する運用パターンの追加、削除を行います。

コマンド形式

SETSDLDAY [引数 1], [引数 2], [引数 3], [引数 4] (追加時)

SETSDLDAY [引数 1], [引数 2], [引数 3] (削除時)

コマンド引数 (追加時)

引数番号	内容	設定値	初期値
1	月	1~12	—
2	日	1~31	—
3	日パターン種別	A~J=運用パターン番号 NOL=平日 HOL=休日 STP=休止日	—
4	実行後保存有無	ON=実行後保存 OFF=実行後削除	—

コマンド引数 (削除時)

引数番号	内容	設定値	初期値
1	月	1~12	—
2	日	1~31	—
3	日パターン種別	NON=設定解除	—

コマンド使用例

SETSDLDAY 1, 1, A, ON

SETSDLDAY 1, 1, NON

※設定可能な月日は、PMAN 装置の月日から1年間です。

3.2.2 SETSDLWEEKLY [週間スケジュール設定]

SETSDLWEEKLY コマンドは曜日毎に実行する運用パターンの設定を行います。

コマンド形式

SETSDLWEEKLY [引数 1], [引数 2], [引数 3], [引数 4], [引数 5], [引数 6], [引数 7]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	曜日パターン種別(日曜日)	A~J=運用パターン番号 NOL=平日 HOL=休日 STP=休止日	HOL
2	曜日パターン種別(月曜日)	上記と同じ	NOL
3	曜日パターン種別(火曜日)	上記と同じ	NOL
4	曜日パターン種別(水曜日)	上記と同じ	NOL
5	曜日パターン種別(木曜日)	上記と同じ	NOL
6	曜日パターン種別(金曜日)	上記と同じ	NOL
7	曜日パターン種別(土曜日)	上記と同じ	HOL

コマンド使用例

SETSDLWEEKLY HOL, NOL, A, B, C, D, STP

3.2.3 SETSDLHOLIDAY [平日/休日スケジュール設定]

SETSDLHOLIDAY コマンドは平日、休日に実行する運用パターンの設定を行います。

コマンド形式

SETSDLHOLIDAY [引数 1], [引数 2]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	パターン種別(平日)	A~J=運用パターン番号 NON=設定解除	NON
2	パターン種別(休日)	上記と同じ	NON

コマンド使用例

SETSDLHOLIDAY A, J

3.24 SETSDLFOLLOW [スケジュール追従設定]

SETSDLFOLLOW コマンドはスケジュール追従の有効/無効設定を行います。

コマンド形式

SETSDLFOLLOW [引数1]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	追従有無	ON=追従する OFF=追従しない	OFF

コマンド使用例

SETSDLFOLLOW ON

3.25 SETSDLVALID [スケジュール有効/無効設定]

SETSDLVALID コマンドはスケジュールの有効/無効設定を行います。

コマンド形式

SETSDLVALID [引数1]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	有効/無効	ON=有効 OFF=無効	OFF

コマンド使用例

SETSDLVALID ON

3.26 ALLGET [装置設定取得]

ALLGET コマンドは、装置の現行設定を取得します。
取得される設定項目は、各設定コマンドの形式で表示されます。

コマンド形式
ALLGET

コマンド引数
無し

3.27 ALLSET [装置設定]

ALLSET コマンドは、装置一括設定を行います。
設定に用いるデータは、装置設定取得で取得したデータを使用する

※コマンド実行後は一括設定入力モードになり、『/E』の後に改行が入力されるまで続けられます。

コマンド形式
ALLSET

コマンド引数
無し

3.28 DEFAULT [設定初期化]

DEFAULT コマンドは、装置設定を初期化し工場出荷の状態に戻します。

コマンド形式
DEFAULT

コマンド引数
無し

3.29 DUMP [メモリダンプ]

DUMP コマンドは、引数にて指定されたエリアのメモリダンプを表示します。
メモリダンプの単位は2バイト単位です。奇数バイト分の表示指定を行うと、1バイト分追加された形で表示されます。

コマンド形式

DUMP [引数1], [引数2]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値
1	ダンプ開始アドレス	メモリアドレス(1~6桁の16進表記)
2	ダンプ終了アドレス	メモリアドレス(1~6桁の16進表記)

※メモリアドレス 0xF00000~0xFFEFFF, 及び 0xFFFFF 以降はアクセス禁止領域です。ダンプするエリアにこの領域が含まれてはいけません。

コマンド使用例

DUMP 4A0000, 57FFFF

3.30 HELP [ヘルプ]

HELP コマンドは、コマンドの一覧表示を行います。

コマンド形式

HELP

コマンド引数

無し

3.31 LOGCLR [運用ログクリア]

LOGCLR コマンドは、装置内に蓄積されている運用ログをクリアします。

コマンド形式

LOGCLR

コマンド引数

無し

3.3.2 LOGOFF [設定モードログオフ]

LOGOFF コマンドは、コマンド入力画面からログオフします。

コマンド形式
LOGOFF

コマンド引数
無し

3.3.3 LOGVIEW [ログ表示]

LOGVIEW コマンドは、装置内に蓄積されている運用ログを表示します。

コマンド形式
LOGVIEW [引数 1]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値
1	表示件数	0~

コマンド使用例
LOGVIEW 100

3.3.4 POWER [電源投入/切断]

POWER コマンドは、引数にて指定された各コンセントに対する電源投入/切断を行います。

コマンド形式
POWER [引数 1], [引数 2]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値
1	コンセント番号	1~8 or ALL (PMANモデル100) 1~2 or ALL (PMANモデル50) ※ALL を指定した場合には全コンセントに対して電源投入/切断を行います。
2	電源投入/切断指定	ON =電源投入 OFF=電源切断

コマンド使用例
POWER 6, ON

3.35 RESET [運用管理装置再起動]

RESET コマンドは、運用管理装置を再起動します。

コマンド形式

RESET

コマンド引数

無し

3.36 SAVE [装置設定の不揮発メモリへの格納]

SAVE コマンドは、設定系コマンドで設定された項目を運用管理装置内の不揮発メモリに記録します。

コマンド形式

SAVE

コマンド引数

無し

※設定を運用に反映させるため、RESET コマンドにより再起動を必ず実施してください。

3.37 WSCONNECT [サーバ透過通信開始]

WSCONNECT コマンドは、引数に指定されたコンセントに接続されているワークステーションサーバおよび一部の周辺機器に対して透過接続を行います。本コマンドはTELNET管理コンソールからは使用できません。詳細は、運用管理装置 PMAN モデル 50/100 ユーザーズガイド「6.1.1 接続方法」を参照ください。

コマンド形式

WSCONNECT [引数1]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値
1	コンセント番号	1~8 or ALL (PMANモデル100) 1~2 or ALL (PMANモデル50)

コマンド使用例

WSCONNECT 7

3.38 TELNETCUT [TELNET 透過通信切断]

TELNETCUT コマンドは、引数に指定されたコンセントに接続されているワークステーションサーバおよび一部の周辺機器に対するTELNET透過通信を切断します。本コマンドはTELNET管理コンソールでは使用できません。

コマンド形式

TELNETCUT [引数1]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値
1	コンセント番号	1~8 or ALL (PMANモデル100) 1~2 or ALL (PMANモデル50)

コマンド使用例

TELNETCUT 8

3.39 TRACE [ユーザトレース有効/無効]

TRACE コマンドは、ユーザトレースの有効/無効を行います。無効~有効の間はユーザトレースが行われません。

コマンド形式

TRACE [引数1]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値
1	ユーザトレース有効/無効	ON =有効 OFF=無効

コマンド使用例

TRACE ON

3.40 VIEW [設定情報表示]

VIEW コマンドは、運用管理装置に設定されている情報を表示します。

コマンド形式

VIEW

コマンド引数
無し

3.4.1 SDLCLEAR [スケジュール設定初期化]

SDLCLEAR コマンドは、スケジュール設定の初期化を行います。

コマンド形式
SDLCLEAR

コマンド引数
無し

3.4.2 SETUPSRESTORE [UPS 復電処理モード設定]

UPS 復電検出時にコンセント電源投入を開始するタイミングを設定する。

コマンド形式

SETUPSRESTORE [引数 1]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	UPS 復電検出時動作 各AC コンセントを停止中に復電した場合に全コンセントの停止を待ってから復電処理を開始するか、停止に成功したコンセントから順番に復電処理を行うかを選択する。	ALL =一括投入 ONE =個別投入	ONE

コマンド使用例

SETUPSRESTORE ONE

3.4.3 SETWATCHSTART [サーバ監視開始待ち時間設定]

サーバ監視の監視待ち時間を設定する。

コマンド形式

SETWATCHSTART [引数 1], [引数 2], [引数 3], [引数 4]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	コンセント番号	1~8 (PMANモデル100) 1~2 (PMANモデル50)	
2	P I N G監視の開始待ち時間 コンセント投入後からP I N G監視を開始するまでの待ち時間を設定します。	0~7200 (秒)	0
3	シリアルポート (D S R信号) 監視開始動作 コンセント投入後にシリアルポート (D S R信号) 監視を開始する条件を設定します。	DR = サーバのD S R信号のONを検出後監視開始(※) WT =サーバ監視開始待ち時間経過後監視開始 ※接続機器として “Windows系サーバ” を選択した場合のみ使用可能な設定値です。	WT
4	シリアルポート (D S R信号) 監視の開始待ち時間 3項にてサーバ監視開始待ち時間経過後監視開始を選択した場合に有効な設定となります。 コンセント投入後からシリアルポート (D S R信号) 監視を開始するまでの待ち時間を設定します。	0~7200 (秒)	0

コマンド使用例

SETWATCHSTART 1, 120, WT, 120

3.4.4 SETNFB [コンセントボックススイッチ OFF 検出時処理モード設定]

コンセントボックススイッチ OFF 検出時にコンセントの状態を停止するか否かを設定する。
(PMANモデル100のみ)

コマンド形式

SETNFB [引数1]

コマンド引数

引数番号	内容	設定値	初期値
1	コンセントボックススイッチOFF 検出時動作	CON=コンセント状 態保持 STOP=コンセント 即停止	STOP

コマンド使用例

SETNFB STOP

第4章 留意事項

4.1 ALLGET, ALLSET

ターミナルソフトから ALLGET コマンドにて表示された現行設定情報をコピー&ペーストを用いてテキストエディタなどへ貼りつける場合に1行の設定情報が2行に渡った文字列となり、途中で改行コードが入ることがあります。その場合は、ALLSET コマンドにて設定情報をリストアする時にエラーとなります。

ALLGET コマンドにて現行設定情報を取得する場合は、改行が入らないようご注意ください。